

H.C.R. 2021 福祉機器利用者アンケート～集計結果報告～

急速に拡大した新型コロナウイルス感染症は、長期にわたり社会や経済活動に影響を及ぼし、福祉の現場においても、大きな制約を課してきました。そうしたなか、ICT機器の導入推進や、感染症拡大予防の観点もふまえた機器の活用など、福祉機器へのニーズは高まっていくとともに、さらに多様化してきたと考えられます。

一方で、かねてより福祉機器の利用に関するニーズを伝える手段や場が少ないという課題が散見されており、コロナ禍において対面による交流やプレゼンには制限が生じ、より一層情報提供や利用者の声を開発者等に届ける工夫が必要であることが伺えます。

そのような状況下で、福祉機器利用者やその支援者がもつ要望や意見を開発者等に届けることを目的に、本会では例年に続き、福祉機器利用者やその支援者を対象とする「福祉機器利用者アンケート」をH.C.R. 2021の会期中に実施し、626件の回答を得ました。

回答者の内訳として、年齢別では、60歳代が15%、70歳代以上が9%で、例年の約1.5倍となりました。これは、福祉機器の利用機会が多くなるとされる高齢者層の方が、自ら率先して情報を得ようと来場され、協力いただいたことが伺えます。

また、40歳代が20%、50歳代が29%と全体の半数近くを占め、福祉機器を活用している方の支援者の方々の回答も多くみられました。さらに、2021年においては10代が6%、20代が11%、30代10%と、例年に比べ世代ごとの偏りが少なかったことが特徴的でした。世代を問わず、福祉機器への関心が高まっていると思われれます。

本アンケートにおいて、福祉機器利用者にとって特に関心の高いと思われる回答が多く寄せられた「福祉機器情報の入手方法」、「購入/レンタル時の相談窓口」、「福祉機器の利用にあたって望まれること」「福祉機器の開発や利用についての意見・要望（フリーアンサー）」を集計しグラフにまとめました。さらに、今年度新たに設問を追加した「コロナ禍での機器使用で、使いにくさを感じたこと」の回答を抜粋しご紹介します。ぜひ、参考としてください。

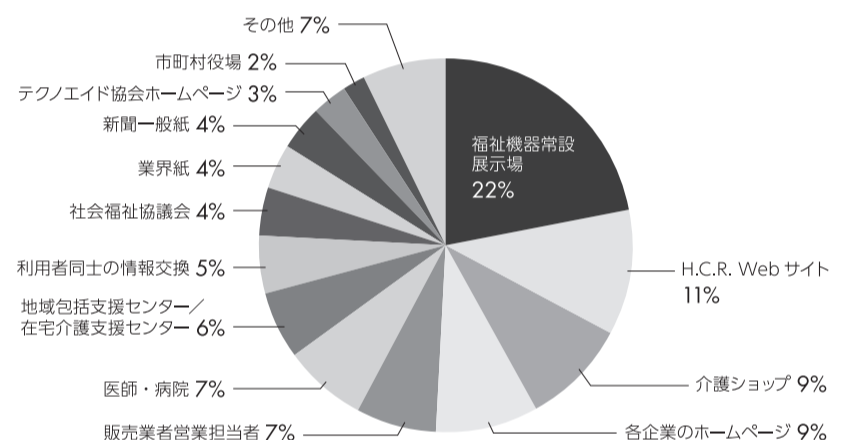
本会では、今回のアンケート結果を参考とし、H.C.R.をはじめとした事業をとおして、福祉機器利用者に役立つ情報の発信に努めます。

また、福祉機器開発・販売関係者の皆さまにも、開発・販売を拡充していくなかでアンケート結果を参考にいただければ幸いです。

① 福祉機器情報の入手方法（※複数回答可）

福祉機器情報の入手方法（場所）は、例年同様「福祉機器常設展示場」が22%と最も高い結果でした。次いで、「H.C.R.のWebサイト」が11%と昨年より4%上昇しました。また、「介護ショップ」と「各企業のホームページ」が9%と並び、「販売業者・営業担当者」が7%、「地域包括支援センター/在宅介護支援センター」が6%となりました。

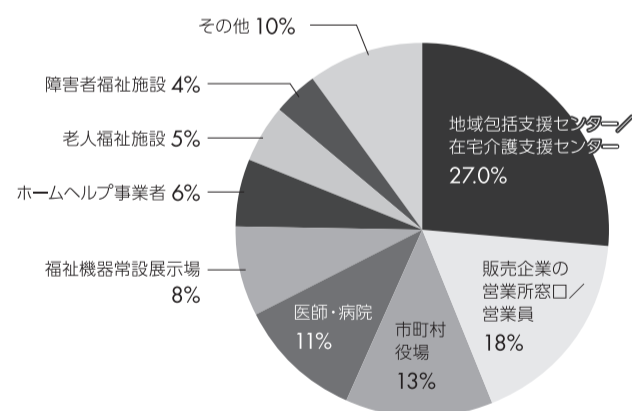
これらの結果から、コロナ禍において、インターネット上で気になる製品を調べる動きが活性化されつつも、機器を実際に「見て、聞いて、触って、相談する」という場合は福祉機器情報を求めるうえで引き続き欠かせない点であると推測されます。



② 購入/レンタル時の相談窓口（※複数回答可）

福祉機器の購入/レンタル時の相談窓口として、例年同様に「地域包括支援センター/在宅介護支援センター」が27%と最も多い結果となりました。これは、「地域包括支援センター/在宅介護支援センター」において福祉・介護の専門職が配置されていることから、福祉機器の利用者それぞれの環境や状況にあわせた適切な対応ができることが背景にあると考えられます。

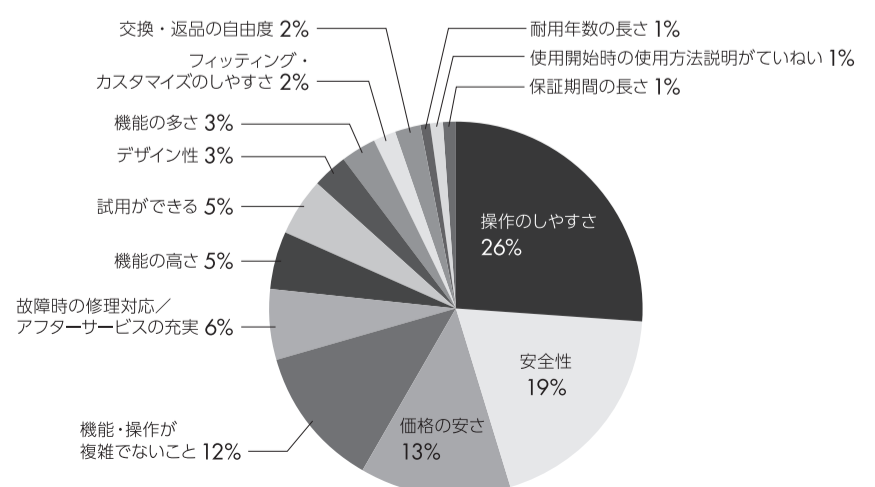
次いで「販売企業の営業所窓口/営業員」が18%ですが例年より割合がやや低いという結果でした。コロナ禍における訪問営業自粛などによる影響があったのではないかと推測されます。



③ 福祉の利用にあたって望まれること（※3つまで選択可）

福祉機器の利用にあたって望むこととして、例年に続き「操作のしやすさ」が26%と最も多く、さらに「機能・操作が複雑でないこと」も12%で4番目に多い結果となりました。誰でも簡単に操作できる機器の開発への視点が求められているものと考えられます。

次いで、「安全性」が20%でした。最先端の技術を活用し、多機能であることや便利さを追求する機器の開発が注目されている分、同時に安全面に十分に保障されている視点も欠かせないという意識の表れと考えられます。



4 福祉機器の開発や利用についての意見・要望 (フリーアンサー)

例年、福祉機器の試用やメンテナンス、安全性、費用負担などへの対応を求められる声が寄せられる中、今回は福祉機器利用者をはじめ家族や施設関係者からも、多様なニーズを反映させる機器の開発・普及を期待する意見を多数いただきました。本会ではいただいた意見や要望を集約し、次の4項目に分類しました。

■福祉機器の開発に期待する意見

1. 便利さと安全性が保障されていることを前提として、利用者の「生きる喜び」につながるという観点を欠かさないような機器の開発をしていただけたらと思います。
2. 家がせまくても使いやすく、収納の場所を取らないようなコンパクトな製品を望みます。
3. 病院や介護施設で使用する機器は、大きさや価格の問題から自宅では使用できないことがあり、両方の場で使い勝手の良い機器の開発を望みます。
4. 個々の商品を見比べてみた時に、それぞれの良い点を合わせたものがほしいと思った経験がありました。メーカー同士の情報共有がもっと活発になれば良いと考えます。
5. ユーザーの多様さに寄り添い、ニーズに対応したものをどんどん開発してほしいです。
6. 安全性はもちろんのこと、操作性が良いことも重要視しています。
7. デザインの改良を進めていただきたいです。一目見て「高齢者用」というようなデザイン性が多く、カラフルさや多彩なものになるとより良いと感じます。
8. 利用者のニーズを十分に反映しつつ、開発期間がもっと短くなり、すぐに手に入るようになれば良いと考えます。
9. 利用者目線でも、介助者目線でも、安全な福祉機器であることを望みます。
10. 元々は福祉分野ではない企業が参入することで、もっといろいろな場面や多様な人が活用できるような幅が広がることを期待します。
11. 身体状況の変化があると、機器自体を買い替えるしか対応方法がありません。障害の状態によってオプションをつけてカスタマイズできるような機器がほしいです。
12. 子どもから大人へ成長する過程の時期に使えるような機器の開発を望みます。
13. 在宅で生活する中で、できるだけ自分の力をいかして自由に移動ができる機器の開発が進んでほしいと思います。
14. 高齢者や障害者、子どもなどの区別なく、誰もが共通に利用できるようなデザイン性の高さや操作のしやすさが両立した製品を期待します。

■今後の開発に期待したい具体的な福祉機器・用具

1. 車いすの片掛け両利きのプレーキが、どの車いすにもあるとよいと感じています。後付けでも対応できるよう、どの車いすにも適用できる電動モーターや電動アシストが開発されると嬉しいです。
2. 認知症の方へのレクリエーションに使える機器などがもっと充実してほしいです。
3. 歩行器について、利用者は軽くてコンパクトなものを望みますが、身体にあわず安定しない場面も多々あります。安定した大きさでかつ軽量化されることが望ましいと考えます。
4. 歩行器のプレーキとロックの操作が高齢者でも行いやすいよう、簡易な操作で行えるようにしてほしいです。
5. 電動車いすのバッテリーで、稼働時間が長いものの開発を期待します。また、充電が短時間で完了するものだとお楽しみです。
6. 歩行器で、4輪ストッパーでいすがついている商品や、買った物を入れる大きさが十分かつ場所をとらないようなシルバーカーがあればよいと思います。
7. 座位がとれるが、自力での立ち上がりが難しい方に向け、1人で楽に装着できるオムツ、衣類があると良いと考えます。
8. 雨の日に杖と傘を持つと両手がふさがってしまい危険が伴うので、転倒防止やスリッパ防止といった点を徹底してほしいです。
9. 自具などは、商品カラー等が昔から変わらないように思います。日常生活用品と変わらないようなデザインや色で開発していただきたいです。
10. 福祉車両の、シートが前に出てくる機能があるのはとても助かるのですが、利用者が乗り込む際、「手すりがなく、怖い」という感想がありました。収納式のひじ掛けをつけてほしいです。

■福祉機器利用者の情報収集や企業による情報発信に関する意見

1. ホームページの情報がスマートフォンで見にくいことがあるため、スマートフォン（アプリ等）で見やすいサイズになると、利用者やその家族等に説明しやすくなると思います。
2. インターネットで機器を見る際、大きさ、色、価格をだれが見ても理解できるような紹介ページにしてほしいです。
3. 新機能・高機能な機器が存在していても、その情報が現場まで届かなければ普及が難しいと思うため、各施設へ情報が届くシステムがあれば良いと思います。
4. 販売業者・レンタル業者によって機器の取り扱い内容に差異があり、そういった偏りがないようなシステムができてほしいです。
5. 販売店がもっと身近に、数多くあったら気軽にに行けて助かります。
6. レビューなどを表示して、他の人が使用した感想が分かるような情報提供がほしいです。
7. どのような利用者を想定して開発したのかなど、機器のコンセプトがハッキリ分かるようにしてもらえると、選ぶ際に探しやすいと思います。
8. 常時 Web 上で、企業の枠を超えた最新の情報が得られるような仕組みがほしいです。
9. 福祉機器を初めて使う場合に、どのような福祉機器が、どういった状況で役立つのか、簡単に調べられるデータベースのようなシステムがあると良いと思います。
10. 使い方の説明が動画で見られると、とても分かりやすくて良いと思います。
11. 利用者が、メーカーへ意見や要望を伝える機会がもっと増えてほしいです。こういうものがほしい、もっとこうだったらいいのに、という意見や感想を届ける手段がありません。
12. 写真だけではイメージがわからないことも多く、機器を立体的に見られると良いと思います。自宅にいながら機器使用をイメージできるようなコンテンツ（VR、AR など）が増えていくと嬉しいです。

■福祉機器の販売やレンタル・展示に関する意見

1. 実際に使ってみて分かることも多いため、サンプルで試せるとありがたいです。
2. 実際に機器が動く様子を見ないとわからないことが多いので、デモンストレーションにもっと気軽に参加できるような機会が欲しいです。
3. 介護する側だけでなく、利用者がもっと機器の店舗などを見学できる環境が整うと良いと考えます。
4. 介護食品系の販売は、業務用で容量が多いことが多く、個人で試供品や小分けが入手できるような販売方法にしていきたいです。
5. リサイクル市場が充実することを望みます。レンタルでは想定より長期の使用になると想定より費用がかかることがあります。
6. 多様な要望があると思いますが、利用者によって状況が全く異なりますので、それぞれに合わせた対応をしていただくことを要望します。
7. 体験型の展示をもっと増やしてほしいです。
8. 介護保険適用外のものも依然多く、レンタルでもっと製品数や種類の充実化により、利用者にも合わせた選択ができるようになれば良いと感じます。
9. 製品情報について、施設の職員や利用者がみて分かりやすいような情報提供を望みます。
10. 新しく開発された製品等の情報が、利用者へ届くまでには時間を要すると感じます。カタログや Web 情報の充実を望みます。

5 コロナ禍での機器使用で、使いにくさを感じたこと

コロナ禍において、日常生活で福祉機器を利用する際に不便さを感じたことを調査し、いただいた意見を集約しました。

機器の種類	コロナ禍での使用で、使いにくさを感じたことの内容
リハビリ機器	複数の利用者が共同で使う機器は消毒するようにはしていましたが、機器によってはアルコール消毒して良いのか、支障がでてしまうのか分からないものが多くありました。 アルコール消毒液が不足した時期に、塩素系漂白剤でこまめに消毒した所、変色したり、ウレタン素材の部分がボロボロになってしまいました。
靴・衣類	試し履きや試着に抵抗がありました。
口腔ケア関係	どうしても飛沫を避けられないため、何か良い方法があればと思いました。
車いす	スーパーなどのレジに並ぶ際、ソーシャルディスタンスをとるために足元に目印のマークが設置してありますが、車いすの場合枠内に収まらないので、本人や介助者がどうしてもほかのお客さんと距離が近くなってしまい、気になりました。 屋外から屋内に入るときに消毒をしますが、特にタイヤやホイール部の消毒に苦労しました。 外出先のスーパー等で、足踏み式消毒器が車いすのままでは使用できず、困りました。 選定のために実際に体験したり、デモンストレーションを見たりできる機会が減り、選定が困難になりました。 座面やハンドルに布などを使用しているものは消毒がしにくく、困りました。
杖	グリップがスポンジタイプで、消毒してもきれいになった感じがしない、と利用者の方に指摘されました。 外出先の病院等で両手で手指の消毒をする際、一時的に杖が邪魔になってしまうことが多かったです。
手すりなどの住宅改修	訪問してもらうことが困難になったため、設置に時間を要しました。
福祉車両	ソーシャルディスタンスを保つうえでの座席配置をどうすべきか、困りました。 車内の換気の実施と、体温保持調整が必要な障害のある乗降者への配慮とのバランスが難しいです。 車内全体をきめ細かく消毒するのに、多くの時間がかかります。
浴そう	複数の利用者の方が使うため、どのくらいの頻度で消毒を行うのか、入浴の時間間隔の調整など、衛生管理が大変だと感じました。
オンライン面会機器	Web 面会で使用したが、音がずれたり画像が不安定な場合もあり、また、耳が遠い人には聞こえにくく話の内容を伝えるために支援が必要なものもあります。
施設向け感染予防アクリル板	飛沫による感染防止のため設置したが、認知症の利用者等が手を切ったり、倒して割れたり、使用後の衛生保持のための洗浄や消毒が大変です。
除菌スプレー	ジェル式のものには伸びるのに時間がかかるため、手指に身体障害がある場合、使いにくくて困りました。
その他	定期的に機器メンテナンスにメーカーの方に施設へ来てもらっていたが、ご家族も含め業者等外部の方の施設内への来所に制限がかかり、修理等に支障がありました。 福祉機器・用具によく使われているスポンジ素材のパーツは消毒がしづらいです。 車いすも杖も、外出先でこまめな消毒を行うことがとても大変です。 福祉機器の中で、消毒液を使うと錆びやすいと考えられる金属素材を使っている部分の消毒に、気を使います。 施設や在宅の電灯のスイッチは、使用頻度の割にはこまめな消毒作業の実行が見落としがちになります。